

2005.12.3 二松学舎大学国際政治経済シンポジウム

東アジア共同体の可能性－経済に おける協調と競争の進化と政治の追走

二松学舎大学
手島茂樹

二松学舎シンポジウムの軌跡

- 2004年9月 国際政治経済シンポジウム「東アジア協調の新段階 - 経済、産業・ビジネス、政治の視点から」
- 2004年11月 ベトナム投資セミナー
- 2005年5月 東アジアの技術革新創発へ道
- 2005年6月 中国元をめぐる動向

東アジアの発展と補完関係の構築

- 近年における東アジアの目覚ましい経済発展
- 対内直接投資を成長の梃子とした投資受入国の経済発展戦略
- 世界規模での競争力確保を目指す多国籍企業のグローバル戦略
- 両者の補完関係構築の顕著な成果

直面する課題

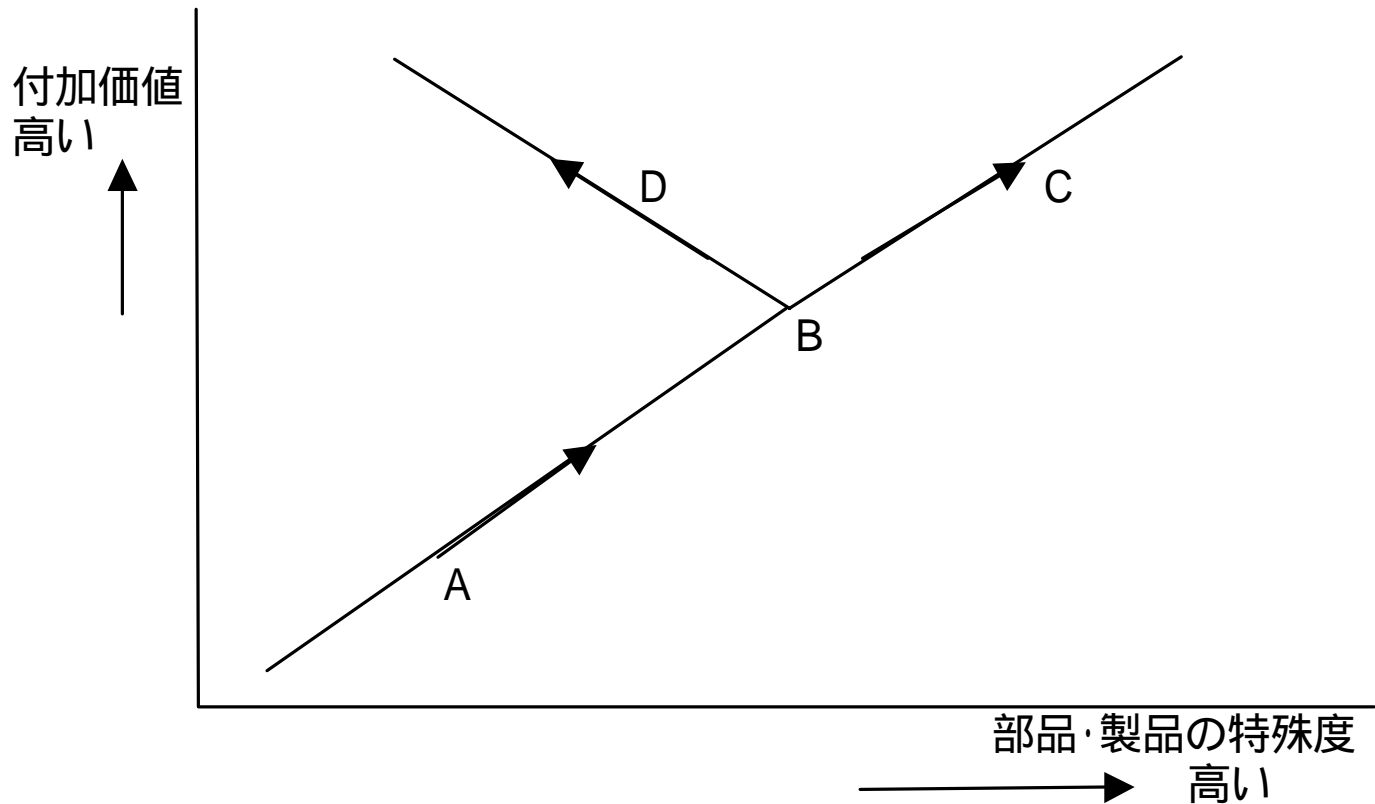
- 台頭するアジア企業の競争力強化という現実を踏まえて、日米欧等の多国籍企業がアジア企業とどのように競争と協調の関係を今後どのように構築していくか
- アジアの急速な経済的一体化の中で、喫緊の最大の課題として残されているのがこの地域での安定的な国際金融為替システムの構築
- 東アジアの政治・安全保障には大きな課題が残されている。こうしたアンバランスの解消、政治・安全保障面でのキャッチアップ・協力の基盤の醸成こそが、来るべき東アジア共同体構築への最大のポイントになる

表1 日本企業の競争力の現状;IT化・モジュール化のもとで競争力のある産業と競争力を喪失した産業の分類(マトリックス)

<p>供給特性 \ 市場特性</p>	<p>(イ) 高価格・高付加価値な「特殊品」を愛好する大規模市場</p>	<p>(ロ) 低価格の「普及品」「汎用品」を愛好する大規模市場。</p>
<p>(1) 製品全体としても部品としても、特殊品としての特性を保持</p>	<p>(A) 日本企業は、十分な国際競争力を保持(自動車)。</p>	<p>(D) 日本企業は需給のミスマッチにより急速に競争力を失う。</p>
<p>(2) 製品としては、速やかに「汎用品・普及品」に移行するが、部品・設計等、「特殊品」としての特性を保持しつづけるものもある。</p>	<p>(B) 「特殊品」としての特性を保持しつづけられる限り日本企業は国際競争力を保持(高付加価値部品、高付加価値素材)。</p>	<p>(D) 日本企業は需給のミスマッチにより急速に競争力を失う。</p>
<p>(3) 「特殊品」から速やかに汎用品・普及品に移行する製品・部品</p>	<p>(C) 日本企業は供給面で国際競争力を持たない。</p>	<p>(E) 日本企業は需給両面から国際競争力を持たない。</p>

部品・製品の特殊度と付加価値

部品・製品の特殊度と付加価値



部品・製品の価格と需要

部品・製品の価格と需要規模

